

Nakagyo



Higashiyama



京都

第3回・阪急

ええはがき  
コンテスト

入選作品集

## 目次

阪急ええはがきコンテスト京都について	1
最優秀賞 写真部門	2
最優秀賞 絵画部門	3
歴史・思い出賞	4
学生優秀賞	5
審査員賞 有野永霧先生	6
審査員賞 井上正三先生	7
審査員賞 土居好江先生	8
大阪ええはがき研究会賞	9
京都市長賞	10
向日市長賞	11
長岡京市長賞	12
大山崎町長賞	13
中京区長賞	14
東山区長賞	15
下京区長賞	16
右京区長賞	17
西京区長賞	18
佳作 京都市中京区	19
佳作 京都市東山区	24
佳作 京都市下京区	32
佳作 京都市右京区	37
佳作 京都市西京区	43
佳作 向日市	46
佳作 長岡京市	49
佳作 大山崎町	53
審査員の先生方からのメッセージ	58

## ごあいさつ

阪急電鉄では、地域（まち）の魅力を再発見し発信するイベント「阪急ええはがきコンテスト」を、2010年に宝塚線・箕面線沿線を対象として、2011年には今津線沿線を対象として、過去2回実施してまいりました。今回の「阪急ええはがきコンテスト京都」はそれらに続く第3回目の取組みとなります。

インターネットや携帯電話が普及し、電子メールやソーシャルネットワークサービスなどコミュニケーションツールが進歩し多様化した現代ですが、今なお、はがきや手紙にはデジタルなメディアにはかえがたい趣きがあります。お気に入りの絵はがきを見て楽しんだり、知人に送ったり、あるいは知人からもらった絵はがきを見て旅情をかきたてられる..といった経験をお持ちの方は今でも少なくないことと思います。

この作品集は、このコンテストに応募いただいた約800枚のええはがきの中から選ばれた、102点の入選作品を掲載しています。この作品集を通じて、みなさま方に京都の魅力を再認識していただくことができたなら、そして作品をきっかけに、まちで実際にその魅力を再発見する楽しさに気づいていただくことができたなら、私どもにとって大きな幸せです。

2012年9月

ええはがきコンテストのホームページ (<http://rail.hankyu.co.jp/eehagaki/>) では、今回のコンテストの入選作品のデータがダウンロードできます。また、2010年開催の宝塚線・箕面線沿線、2011年開催の今津線沿線のええはがきコンテストの入選作品もダウンロードすることができます。

# 阪急ええはがきコンテスト京都について

## 募集作品

豊かな自然や歴史的資産、さまざまな活動など、いろいろな視点から見た京都の魅力を写真やイラストなどで切り取り、それらに対する思いやメッセージをそえた絵はがき「ええはがき」を応募していただく。思い出の中の風景等を対象にした作品や、複数枚のはがきをセットにした作品の応募も可。

## 作品募集期間

2012年3月27日～5月31日

## 対象路線・エリア

対象路線☑ 京都線（京都府域）、嵐山線

エリア☑ 京都市（中京区、東山区、下京区、右京区、西京区）、向日市、長岡京市、大山崎町

## 賞

最優秀賞 写真部門	☑1点☑☑	☑	最優秀賞 絵画部門☑	☑	1点☑☑	
歴史・思い出賞	☑1点☑☑	☑	学生優秀賞		☑1点	
審査員賞	☑B点☑☑	☑	大阪ええはがき研究会賞	☑	1点	
京都市長賞☑☑	☑	1点☑☑	向日市長賞☑	☑	☑	1点
長岡京市長賞☑☑	☑	1点☑☑	大山崎町長賞☑	☑	☑	1点
中京区長賞☑☑	☑	1点☑☑	東山区長賞☑	☑	☑	1点
下京区長賞☑☑	☑	1点☑☑	右京区長賞☑	☑	☑	1点
西京区長賞☑☑	☑	1点☑☑	佳作☑☑	☑	☑	85点

## 審査員（敬称略）

有野永霧（写真家）、井上正三（画家）、杉本容子（大阪ええはがき研究会）、土居好江（NPO法人遊悠舎京すずめ）

- 主 催： 阪急電鉄株式会社
- 共 催： 阪急阪神ホールディングス株式会社
- 後 援： 京都府、京都市、向日市、長岡京市、大山崎町
- 協 力： 大阪ええはがき研究会、株式会社阪急コミュニケーションズ

## ●ええはがきとは...

ええはがきは、「大阪ええはがき研究会」が提唱するまちの魅力を発信する絵はがきのこと。写真やスケッチに加え、作者の思いを伝えるコメント、撮影・スケッチした場所の地図が載っているのが特徴です。

### ええはがきの3つの楽しみ方

**見て楽しむ**☑この作品集を見て、沿線のええはがきポットを再チェック！

**行って楽しむ**☑ええはがきの作品の舞台は京都。ええはがきを片手にまちの魅力を探しに行ってみよう！

**送って楽しむ**☑ええはがきはもちろん葉書として活用OK。送って、あなたのまわりの人にまちの魅力を発信してみよう！

写真・スケッチ



POST CARD

□□□□□□□□

**春の祈り 水上 駅**

早朝の向日神社、お参りの人が順番にやってくる。始末のしだれ桜が待っていました、彩やかに出迎えていた。

**作者のコメント**

審査員賞 土居好江先生

地域（まち）の魅力を写真や絵として切り取り、街への思いやメッセージを込めて発信する絵はがき「ええはがき」を募集するコンテスト「阪急ええはがきコンテスト」。第10回の開催は京都。応募作品は毎日開催から夕クローズまで。

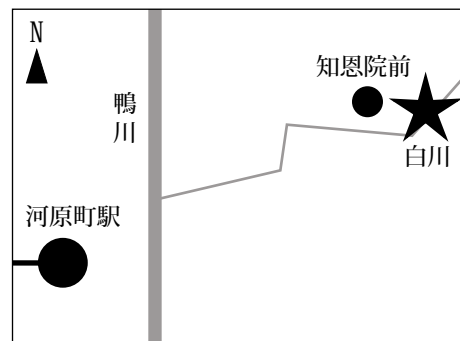
<http://rail.bankyo.co.jp/eehagaki/>





一本の橋 水上 毅

東山区の白川に小さな一本の橋があります。人がすれ違うのも難しいくらいだけど、通勤や通学の方にとって大切な「道」なんです。



審査員  
講評

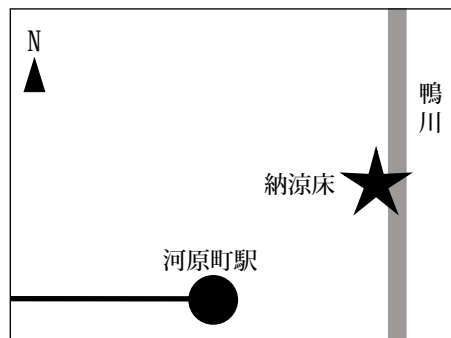
「ここは京都？ロンドン？」と思わず惹きつけられる。ビートルズの有名なアルバムジャケットと同じ構図で、京都を切り取っているところが面白い。青々とした柳、水面のきらめきも鮮やかだ。毎日まちの人々が使っている小さな橋に目を向け、橋を渡る人たちの今日の物語を予感させることで、観光地ではない京都の魅力を生き活きと伝えている。(杉本容子)





京の風情 納涼床 中村勇人

20年程前、上司につれられて初めて行った納涼床。最初は緊張していましたが、京の風情を味わいながらのお酒は格別で、いつもの調子で飲んできてしまった2人でした。



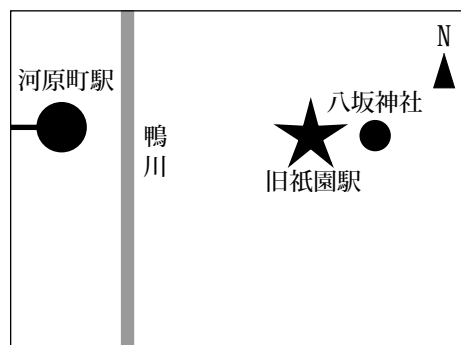
審査員  
講評

何とも楽しい作品です。中央にゆらゆら揺れる川面、その上部に川床を楽しむ大勢の人、対照的に下部には川辺で静かに過ごす二組みのカップル、そしてこの画面を引き締めるように最上部には黒い瓦。これらの構図取りが四角の画面を斜めにぶった切るように構成され動きのある魅力的な画面を作っています。線の面白さにも吸い込まれ、この川床の人々の動きに見入ってしまいます。（井上正三）



## 市電の記憶 前川敏夫

営業終了直前の市電。残しておきたくて、車で追い回した日でした。乗車して記憶に残したい人、写真に撮って残したい人。それぞれの想いを伝えられたらと古いネガから今に。



### 審査員 講評

昭和の時代、京のまちは市電のスピードが似合うまちでした。そういう感性が洛中に溢れていたのです。その頃、洛中とは市電6番のコース、北大路→東山通→九条→西大路の範囲だとの認識があり、写真に映る6番の市電と町家がまちの雰囲気を見事に映し出しています。（土居好江）

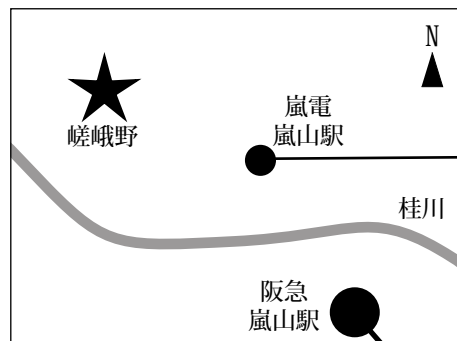




真一しん一

大和奈央

嵐山の竹林には何度か観光に行ったことがありましたが、その1本1本の竹と向き合ってみて、本当に真っすぐに空へ向かって伸びているなあと感じました。このハガキをもらった人が頑張ろうと思ってくれれば嬉しいです。



審査員  
講評

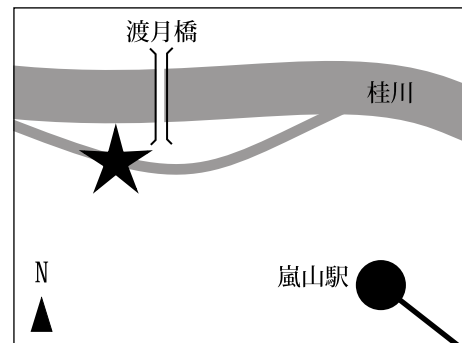
一見何が写っているのかわかりません。竹であることがわかると一気に感動が湧き上がってきます。天空の彼方にまで、永遠に伸びる真っ直ぐな竹。真実一路を歩む若者の誠実な気概が伝わってきて、つい私も背筋を伸ばしていました。アングルの妙をうまく活用して、興味深い視角を提供してくれています。（有野永霧）





最終便 羽嶋和子

満開の桜の季節、人々が行きかい、忙しい一日がすぎて、舟が帰ってきました。お客さんは、もう夕食をいただいておられるかしら。明日も又、忙しいよ。



審査員  
講評

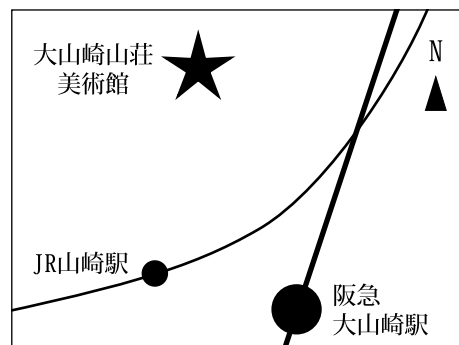
静かに観光船が帰ってきます。紫色に映える春の夕べの空気感がそこはかたなく伝わってきて、味わい深い作品です。まさに嵐山がかもし出す京都情緒の真髓が映し出されているといえます。灯ともし頃のけだるさを破る屋形船の水音が、かすかに聞こえてくるようです。色調表現も見事です。（有野永霧）



斜陽

一木聖子

夏に行くと、気温が少し低くて、ヒンヤリ感まで感じられます。どの季節に出かけても、その折々の季節が感じられて大好きです。秋の気配さえ始まっていない夏の終わりの陽が傾いてきた空気感を表現したいと思いました。



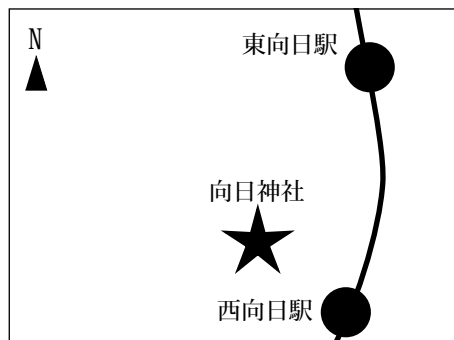
審査員  
講評

筆タッチの勢いも彩色も、洗練されたものを感じます。門を入れてすぐ飛び込むこの建物の美しさと荘厳さに作者の足は止まったのでしょうか。建物のこのアングルの前に躊躇なく構図を決め、受けた感動を薄れる間もなくそのままにザクッと描写されたのでしょう。作者の熱い思いとその息遣いが聞こえてくるような作品です。  
(井上正三)



春の祈り 水上 毅

早朝の向日神社、お参りの人が順番にやって来る。境内のしだれ桜が待ってましたと、彩やかに出迎えていた。



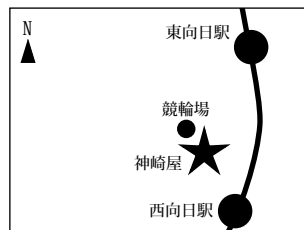
審査員  
講評

たった10分で、まちや家族を失った被災地の方々の想いと同一ように、震災後、日本人の価値観や意識は大きく変わりました。目に見えるものを失った後に、目には見えない大切なものに気づくことができましたのです。祈りの心を取り戻し、祈ることの尊さと、一期一会の春の恵みが美しい構図に、思わずハッとしました。(土居好江)

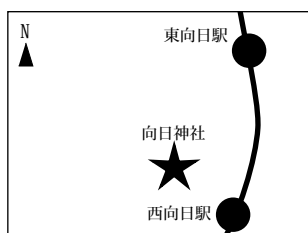




4月頃から、店頭いっぱいに盛り上がった竹の子！うど、わらび、木の芽、山椒、春の香りがあります。秋には、松茸、しいたけ、栗。ここに来ると、季節感が一早く感じられて、私は大好きです。



商店街を歩いて10分位。ふと右を見ると大きな鳥居。そこをくぐると左右に桜並木。長〜い境内の先には向日神社です。今の時期、葉桜の影がたくさんあって、上を見上げながらゆっくり歩くと、とても心地良いです。



## 私の好きな場所

野口美代子

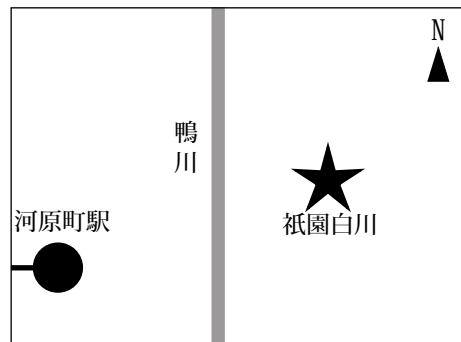
### 審査員 講評

京都の魅力を伝えるにあたって「私の好きな場所」と言い切ってしまう、潔さと説得力にあふれる作品。鮮度が命！の竹の子。すぐ裏の山で朝に収穫したのか、スーパーでは買えない新鮮な山の幸がいつでも味わえる。参道の桜並木は、花の盛りを過ぎたら涼しい木陰をつくってくれる。四季折々何度でも訪れたくなる、住みたくなる魅力を感じます。(杉本容子)



## 清夏 鳴瀬博美

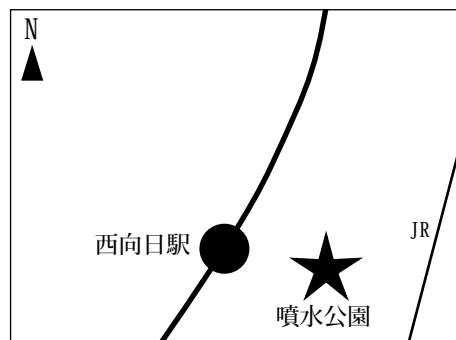
6月の晴れた午後。涼しげな日傘のお二人とすれ  
違う・・・ここは京都やな～って思う。





## 春の情景 ミヨシトシオ

満開の桜と逆光の噴水の水しぶきが春らしい景色となっていました。

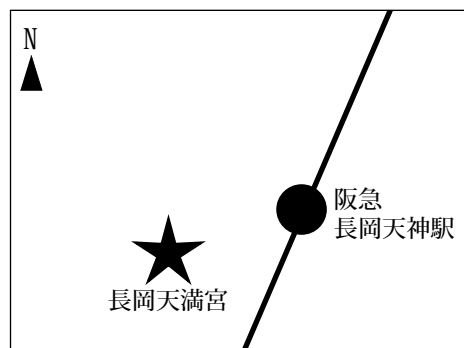






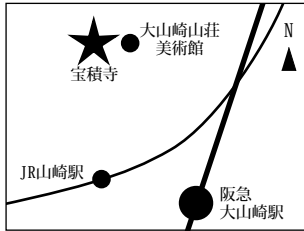
## 真紅の参道 松崎純治

春にはキリシマツツジの真っ赤な花が参道を埋め尽くします。背丈をはるかに超えるほど大きく育った赤い壁は樹齢100年を超えるそうで、一見の価値があります。

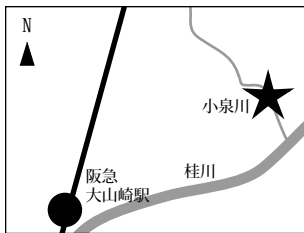


# 大山崎町長賞

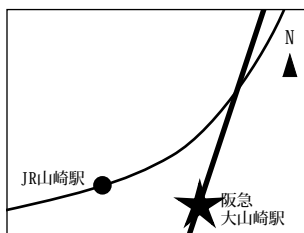
ハイキングで天王山に登り、下山してきたら宝積寺。エンマ堂のところにおりて来ました。ふっとこの三重の塔との風景が目にとびこんできて、思わずカメラをとり、帰ってから絵にして残したく描きました。



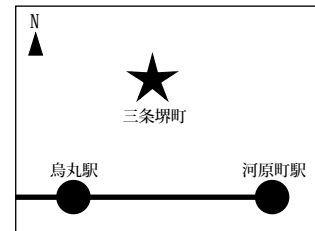
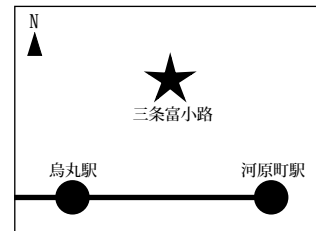
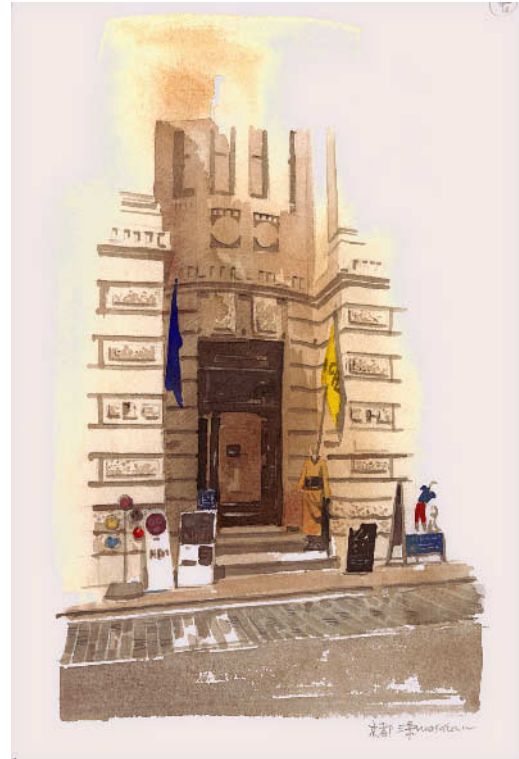
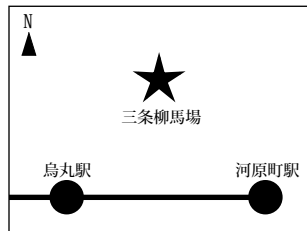
阪急大山崎駅のレンタサイクルで自転車を借りて、小泉川の土手を大山崎ICを尻目に桂川河川敷公園を目指します。春は菜の花（セイヨウカラシナ?）の黄色いじゅうたんに目を奪われます。



阪急大山崎駅京都方面のホームで電車を待っていると、向かい大阪方面のホームで、子どもを肩車にして新幹線の通るのを待っていました。背の高さが（壁に）まだ足りない子どもを肩車していたほほえましい様子です。







京都三条の風景 渡部政人

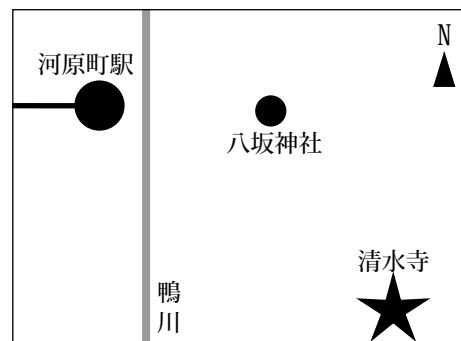
街並がとても綺麗です。





## 京都夜の陣 徐明

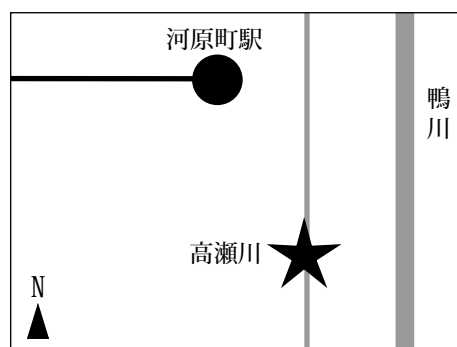
”秋の圧巻”ってことかな？むしろそれ以外の言葉は必要としないでしょう。



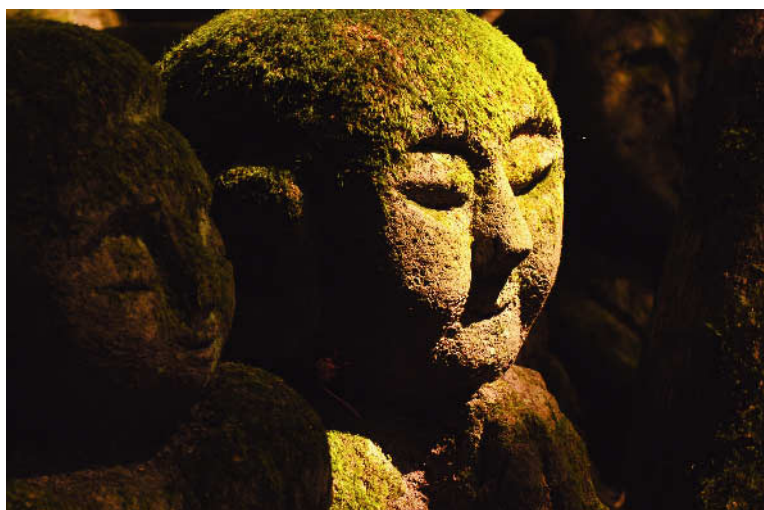


## 水、緑、水鳥 前田 穰

繁華街のすぐそばにありながら、水と木陰と静寂の空間がそこにあります。高瀬川の清らかな流れに浸り、木漏れ日の中にじっと佇む「ゴイサギ」の姿が印象的でした。

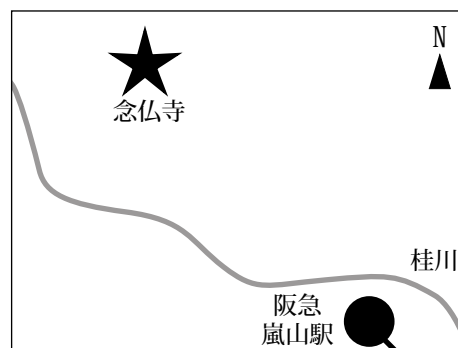




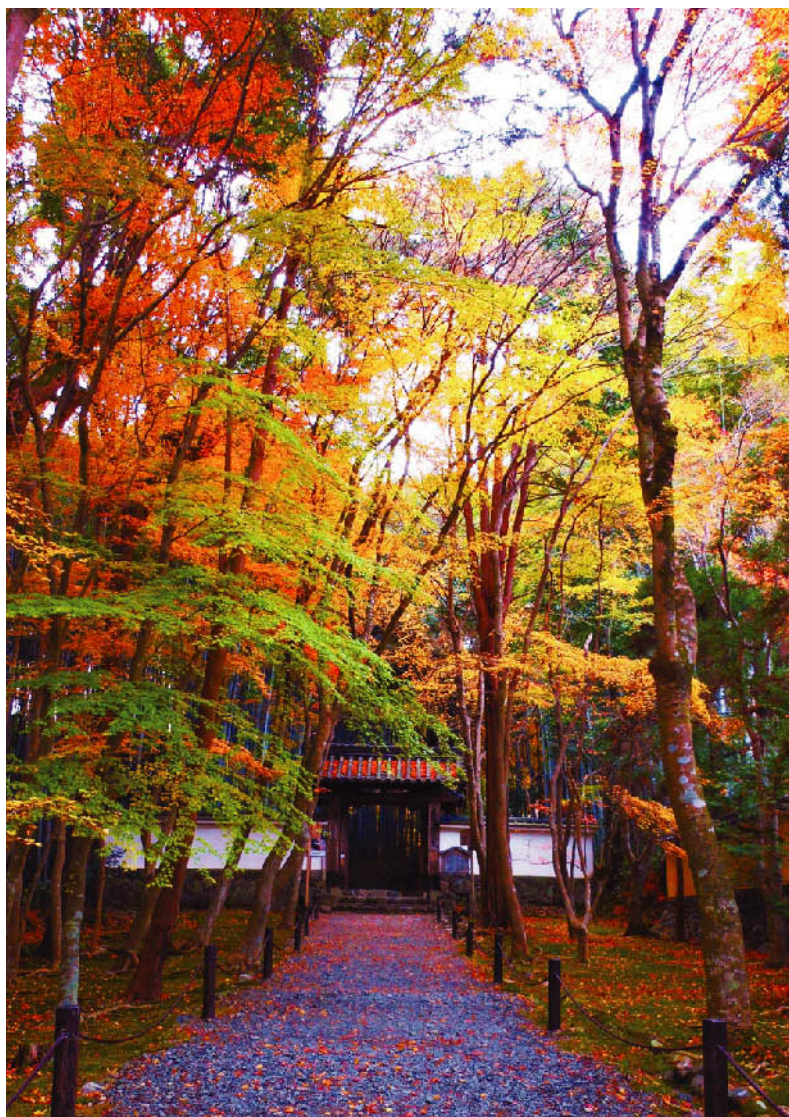


癒しの石仏 前田勝彦

何回訪れても石仏の表情に癒される。

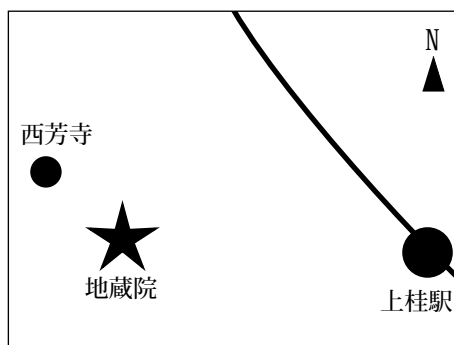






## 晩秋の参道 辻澤昌仲

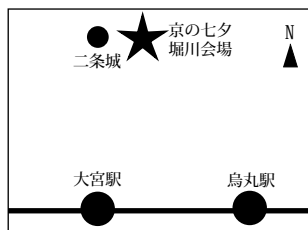
サワサワ・・・カラコロコロ・・・ 風がそよぐたびに、竹林の奥からそんな心地よい音色が聴えてきます。青々とした竹林が続く参道は、秋には朱黄に染ったカエデと共に、絵画のような美しい景色を見せてくれます。





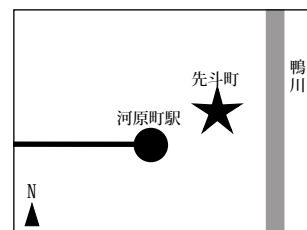
STAR SHINE 抹茶団子(PN)

一番近い星は七夕の星だ。



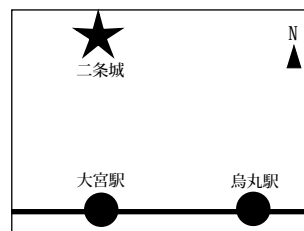
赤提灯のある路 松永大我

赤いちょうちんが路地に並び、  
ついつい足を運びたくなる  
ような雰囲気が入りました。



茜 進戸かおり

友人と夜桜を見に行った。まだ明るく、  
はやすぎたと話していたが、よこを見  
ると空がきれいな茜色になっていた。  
この時間に来て本当によかったと思  
いなおした。

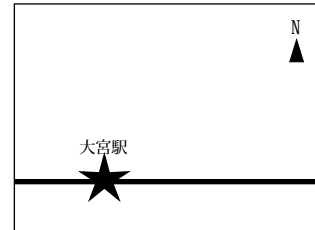






**京都駅の思い出 山下勝久 (3枚組)**

河原町延伸に伴い「京都」は「大宮」になった。



昭和6年開業時からの建物が懐かしい。

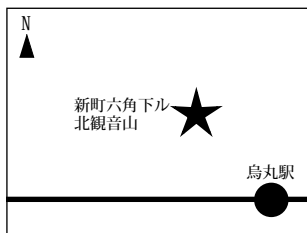


P-6の急行の到着。重量感あふれる車両は京都駅に似合っていた。



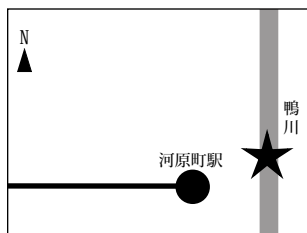
**京の灯り T. N. (PN)**

祇園祭の楽しみは山鉾の豪華な装飾品  
を見ること、特に夕刻、提灯に火が入  
った頃の明るさで見るのが好きです。



**今宵も華やかな鴨川 木下正治**

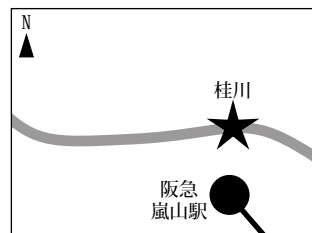
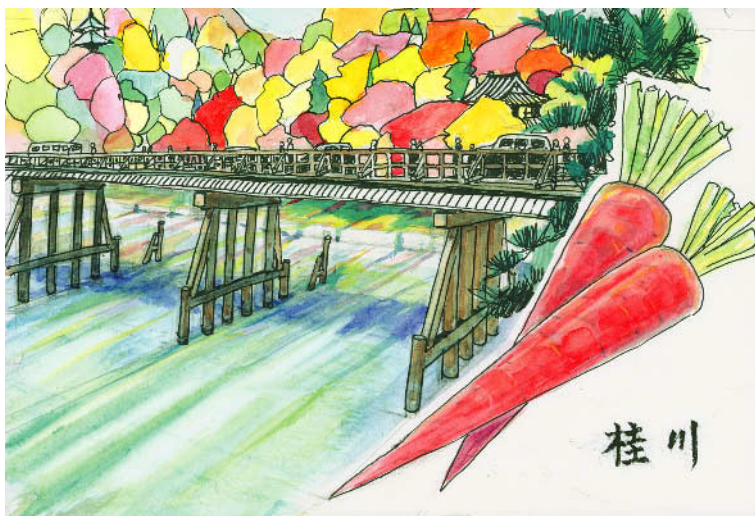
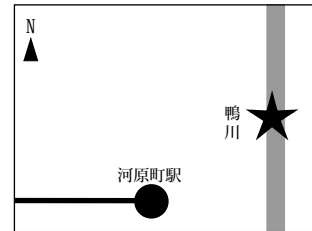
鴨川の河原は夕刻より人々が散策に訪  
れます。京の風物詩「床」の灯りが美  
しく川面に染まる頃、いろいろな集会  
やパフォーマンスが始まります。





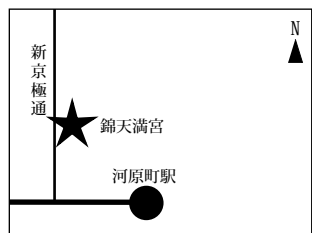
**清流と京野菜 岡島信博 (2枚組)**

京都の清流と京野菜。季節と共にその  
 美しさ、味は日本人の心といえます。夏  
 の鴨川、秋の桂川、京野菜加茂茄子、  
 京人参。これぞ京都。



**錦天満宮で祈願を 木下正治**

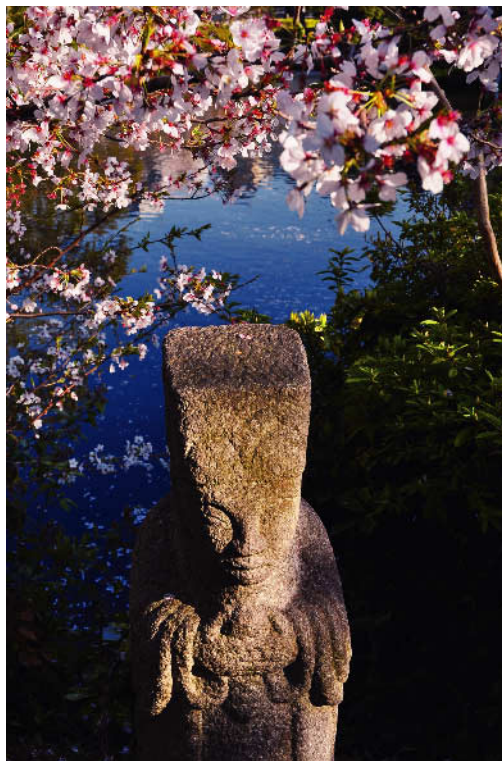
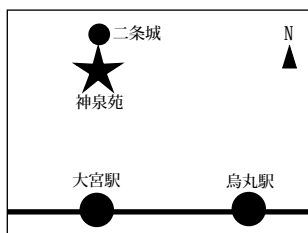
錦小路通の東の入口に錦天満宮が在り  
 ます。京都を訪れる多くの人々が立ち  
 寄って行かれます。





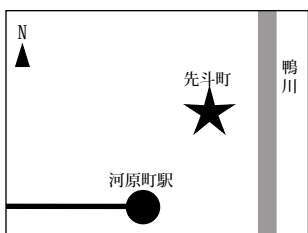
**パワースポット 南井昭夫**

この像に何かしらふしぎな力がある様に思えて、シャッターを切りました。



**先斗町路地 隅田博美**

京都はお墓参りで年に数回は行きます。いつも四条河原町あたりで買い物をして帰るのですが、人混みをさけて路地裏へ入ると、そこには異空間のようなものがあって、とても魅力的です。

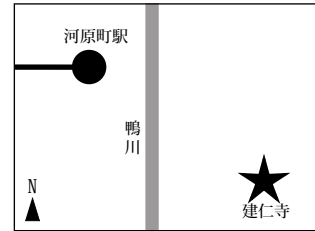






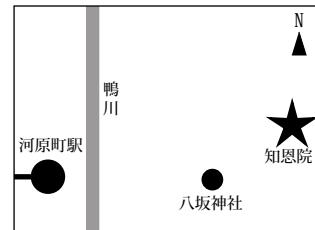
色々な秋 長谷川裕次

水、陸、空の色々な秋をとじこめました。



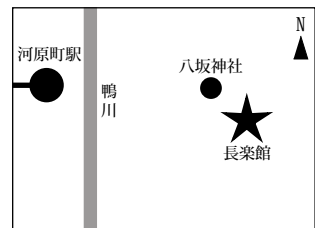
華麗なる三門 徐明

地味な三門も、鮮やかな顔を持っているとびっくりしました。



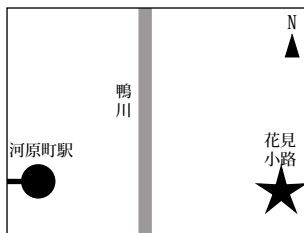
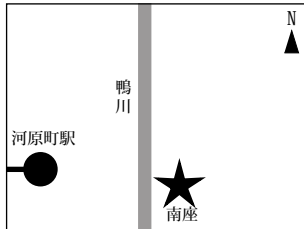
京夏日 上善正憲

9月初旬、清水寺から八坂神社に向かう途中、京らしい純和風の建物とレトロな洋館が眼にとまったと思ったら、3台の人力車が通りかかったので、等間隔になるのを待って撮影しました。



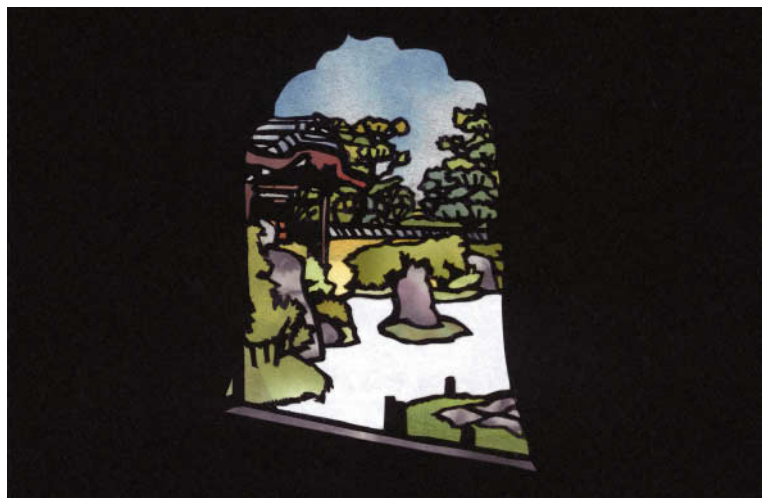
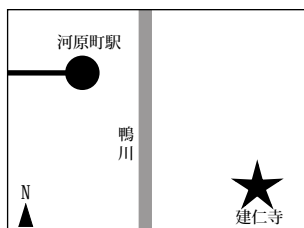
## 京都祇園風景 東 昭 (2枚組)

毎年4月に入ると鴨川沿いには納涼床の準備がはじまり夏の気配が漂いはじめる。四條大橋を渡れば祇園の街並みとなり、京都に来た実感がわく。南座では玉三郎がかかり、それを過ぎると花見小路通りの一力がある。



## 切りとり枯山水 河井祐紀

建仁寺は私が最も好きなお寺です。龍の天井絵が大変気に入っていますが、境内にさりげなくある枯山水が、窓から切りとるとまたこれが乙なもので、「切りとる」イメージから、切り絵によって再現してみました。

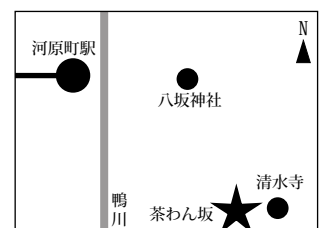
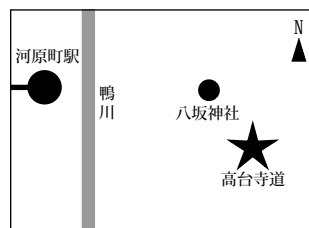
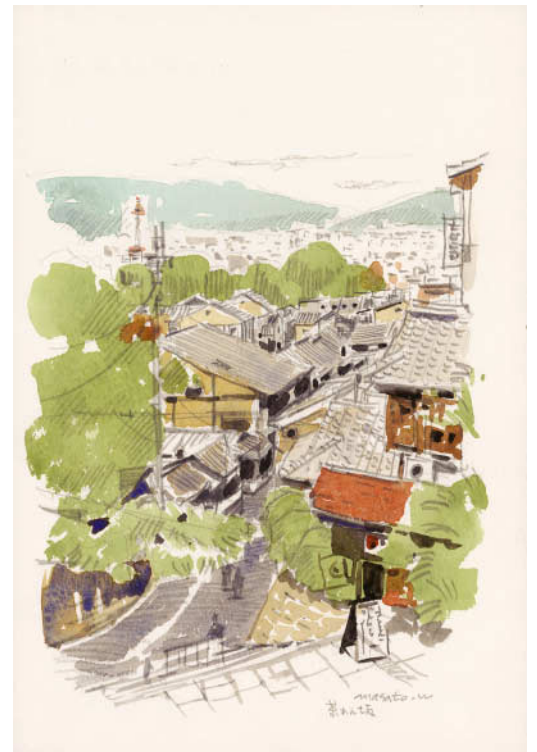
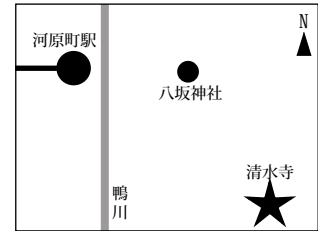






**京都清水の風景 渡部政人 (3枚組)**

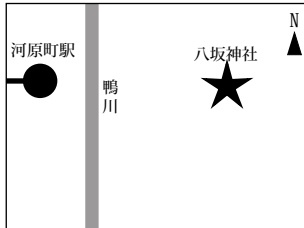
以前京都に7年間住んでいました。その頃によく行った印象深い場所です。





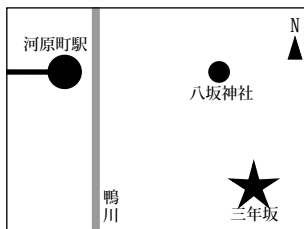
## 京の風情 かるた始め式 中村勇人

お正月のニュースで見る八坂神社の「かるた始め式」。一度は目の前で見たいと行ってはみましたが、さすがに人気の行事、前の方はカメラマンに陣取られ、人の頭しか見えずじまいでした。



## 古都の道案内 meiyong (PN)

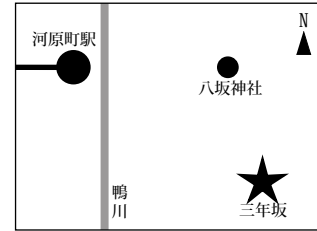
カメラに夢中で、小路をうろうろ。ふと気付くとそこは行き止まり。そんな旅人たちにやさしく語りかける京都ならではの言いまわしにホスピタリティさえも感じる案内板に思わずフォーカス！





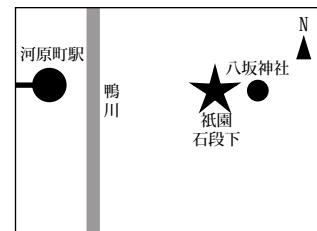
### 三年坂 松浦修一

道の両側に古いノレンの店やみやげ店が軒を連ね、昔ながらの参道風景が見られ、いつも観光客でにぎわい、しばし修学旅行生になった様な気分させてくれる不思議空間です。



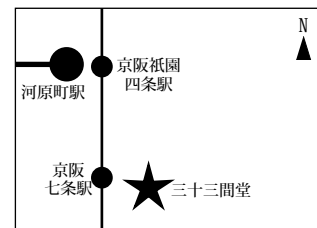
### 四条河原町 夕焼が見える 櫻井 清

四季おりおり四条河原町より円山公園、青蓮院、平安神宮へ歩きます。なぜかこの夕景が好きです。雑多なようですっきり。高層ビルがないせいでしょうか。



### 朱の世界 佐伯孝司

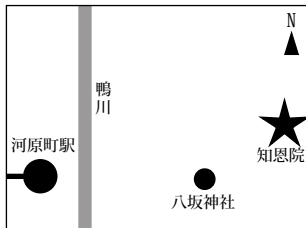
三十三間堂の庭園。朱塗りの建物が池に写り、水面をぼんやり見つめていると幽玄な雰囲気につつまれ、時を忘れてしまいそうになります。





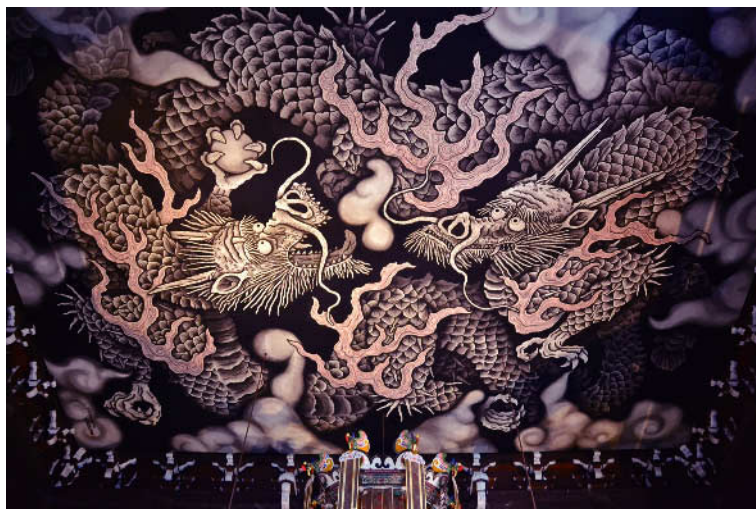
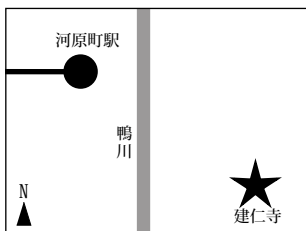
## 静寂 井上弘一

参拝客や観光客があまり行かない高台へ行ってみた。市内が一望できて、静かな場所でした。



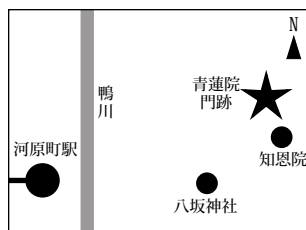
## 静寂の中の圧倒 久保永隆二

建仁寺に行った際にとった一枚。しずかな建物の中での圧倒感を見せられた一枚。



## 星辰落地 徐明

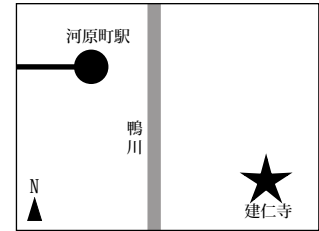
”熾盛光如来”は、光そのものであると言われるらしい。一面の苔庭の海に浮かぶ光の星のように、世の中を明るく照らしていただく。





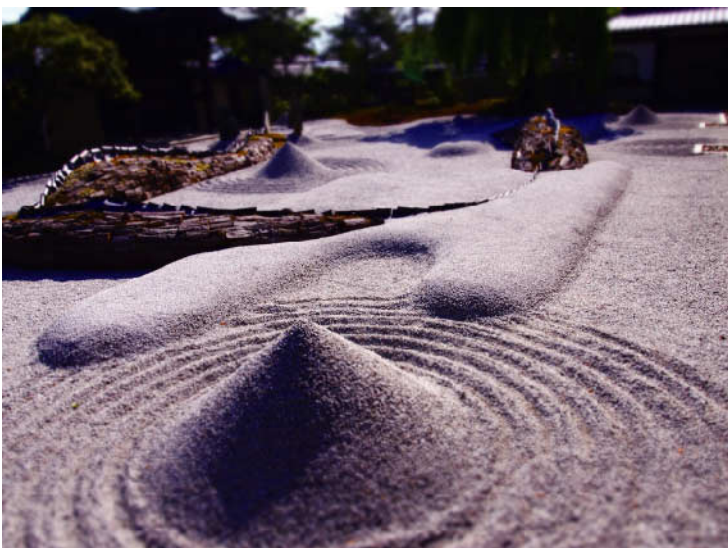
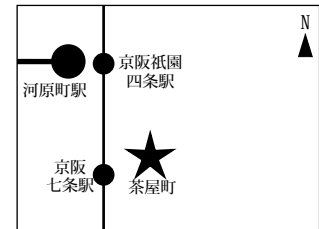
**庭を見つめ、自分を見つめ 前川敏夫**

庭園に向い、それぞれが居場所を定め腰を落とす。静かに見つめる先に見えるのものは？庭の美しさなのか？自分の姿なのか？ごくありふれた風景、その姿を包みこむ大きな京都、懐深い京都を感じる。



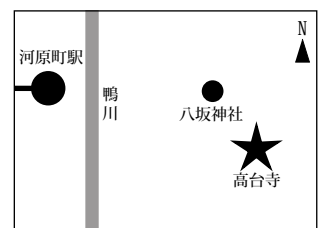
**街中の扇骨干し 岡田保造**

31年前の11月初め、東山七条の京都国立博物館前の歩道に扇骨が干してあった。現在の人通りの多さや汚れた大気のもとでは決して見ることの出来ない京都らしい風景であった。



**悠然 吉岡真紀**

高台寺の庭園にて。繊細な砂絵の中を龍が泳いでいるみたいだ。

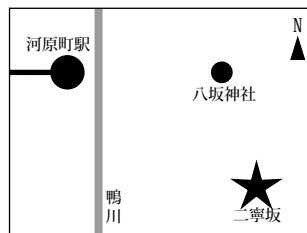






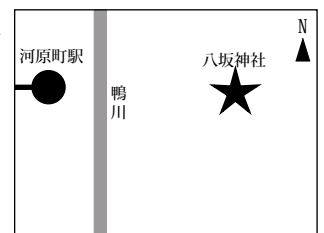
**宵闇に浮かぶ 味岡正樹**

普段多くの観光客でにぎわう二寧坂周辺も、平日の夜は人も少なく静かな時が流れていたとき、目の前にそびえる五重の塔に目をうばわれました。



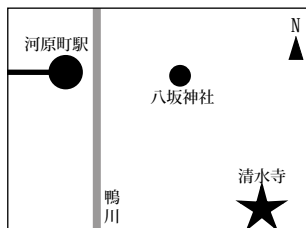
**和 村尾大輔**

美しい色の対比を切り取ってみました。



**ようこそ京都へ 野村文博チェスター**

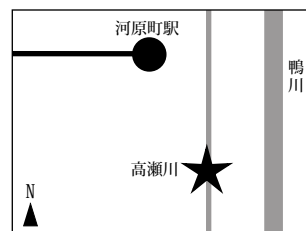
清水寺の狛犬が清水寺の看板をくわえている。





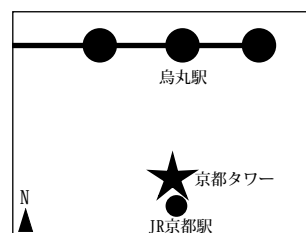
運河 宮本佳典 (2枚組)

かつて材木運搬用の運河として作られた高瀬川だが、今では水位も橋の高さも低く、舟で下るのは難しい。その流れに沿って歩いていたら、どこからともなく木材の良い香りがして、何となく少し懐かしい気持ちになった。



おいでやす。 教野道雄

一般的に京都と言えば神社仏閣、庭園を想像するが、私は京都の玄関口にそびえる京都タワーを連想する。この日も天候に恵まれ京見物を楽しんだ。

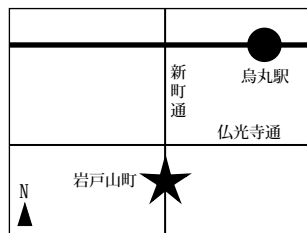






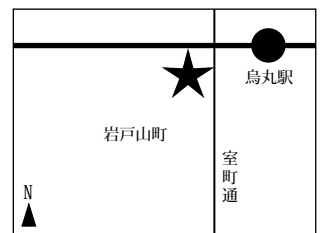
**祇園祭 岩戸山 渡辺 勝**

天岩戸を開いた天照大神が現れる物語に由来して作られています。昔は屋根のない山でしたが、銚子と同じ大きさの車と屋根をつけ、銚子でないため銚子柱はなく、屋根の上に背の高い松の木を建てています。



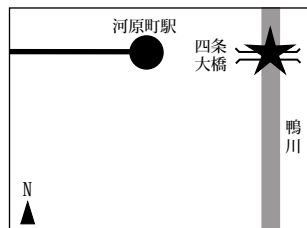
**京町屋ギャラリーの井戸 中本吏枝子**

築170年という京町屋ギャラリーの井戸や中庭に興味をもちました。京町屋の中で、絵をたのしんでいる人達の間を、緑の風がぬけていくイメージです。



**托鉢 (たくはつ) 僧 櫻井眞理**

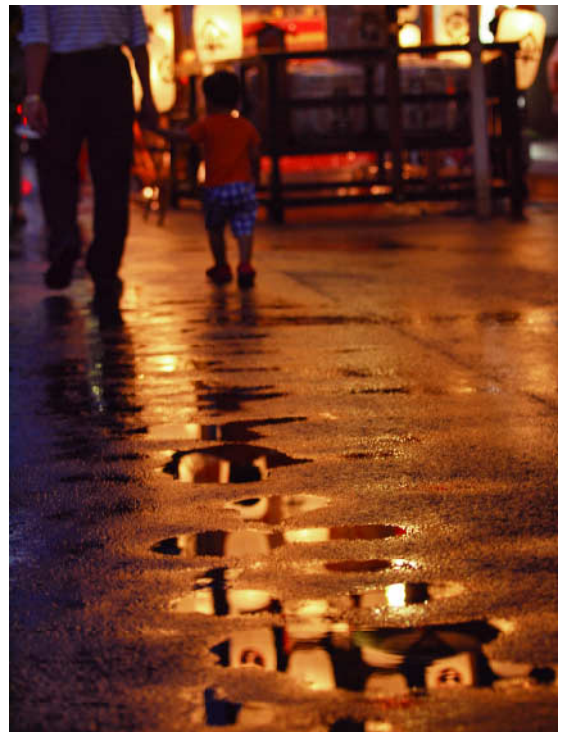
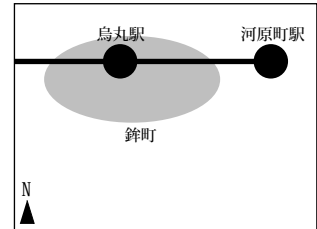
都会のまん中で、たくはつされるお坊様を見ました。とても素晴らしい風景でした。





**焔 (きらめき) 仁科 健 (3枚組)**

関西に越してきて、初めて祇園祭に行った時の写真です。街全体が光につつまれている様で、暗くなっていく空との対比に夢中でシャッターを切りました。

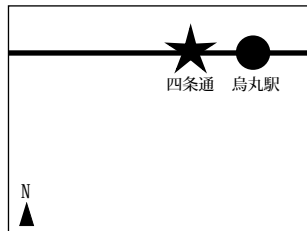






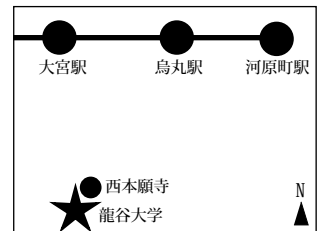
**祭だ 抹茶団子 (PN)**

毎年の宵山は京都のカーニバルだ。



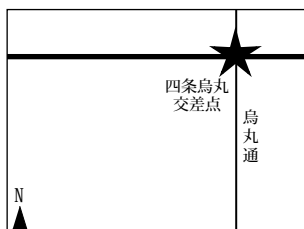
**門扉とカラス 林 茂**

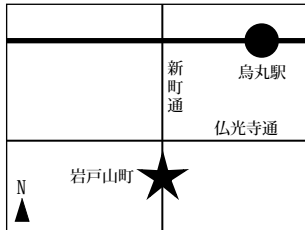
龍谷大学大宮キャンパスには、明治時代に建てられた建物が重要文化財に指定されており、淡いピンク色の壁が光に当たり美しく輝きます。対称的に門扉は、重厚でコントラストが一層壁を引き立ててくれます。



**電線の見えない町 谷 章弘**

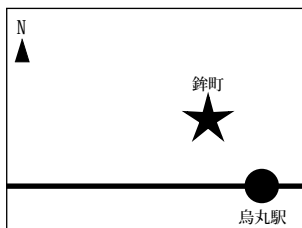
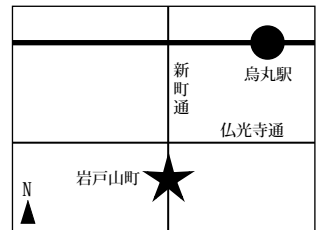
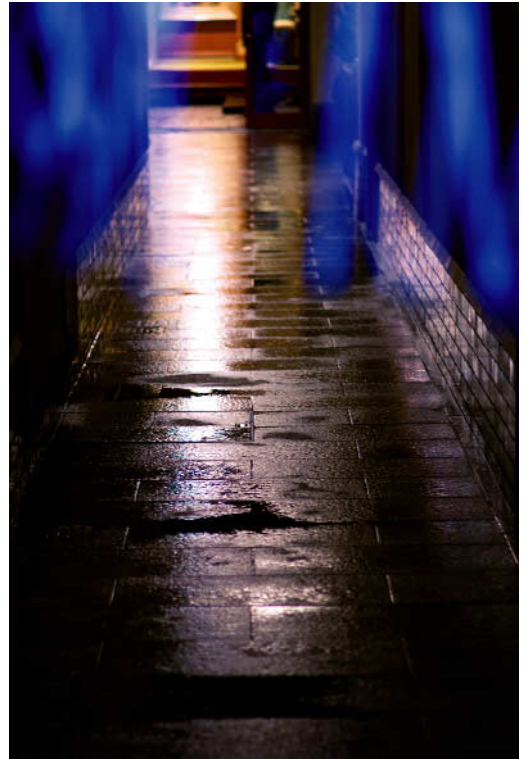
電線がからまっているのも見苦しいが、ここは電線の見えない場所。気になる場所です。





**祭りの宵 木村成宏 (3枚組)**

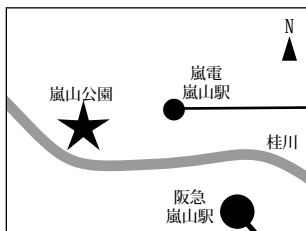
賑やかな祇園祭の宵にも古都らしく静かな、穏やかな時間が流れている。そんな風景を探しながら人混みに流され、ふと立ち止まり、毎日の喧騒から距離を置き、自分だけの祭りの宵に癒される。





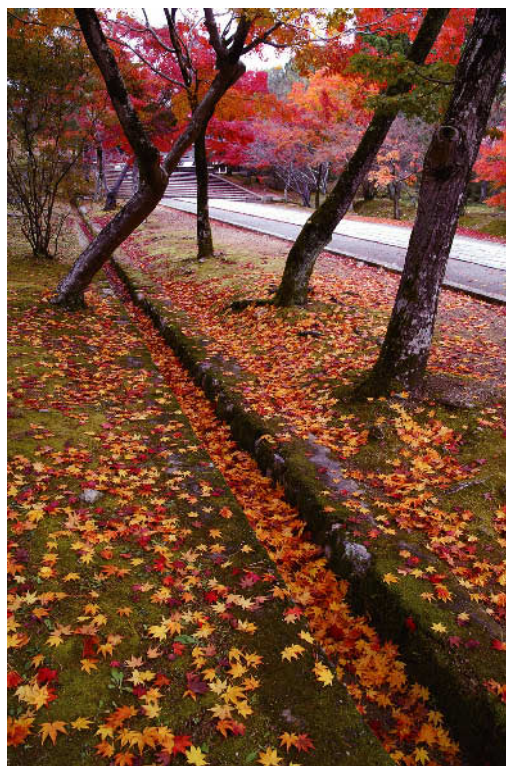
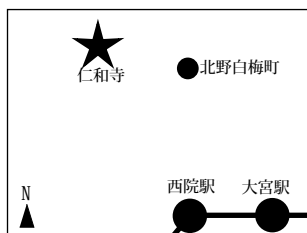
## 石段と紅葉 ヘンリー小島 (PN)

嵯峨亀ノ尾町宮有地内で遅い昼食を取った後、嵐山公園を散策。公園へ上がる石段の縁に紅葉の樹が食い込んでいる？のを発見。先の見えない曲がった石段に、時を感じさせる樹。これから何処へ連れて行ってくれるのだろう。



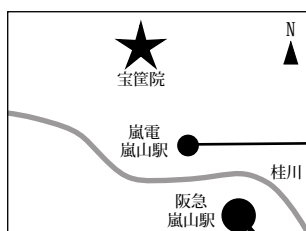
## 御室、散り紅葉 飯尾正弘

十一月下旬、雨上がりの早朝の仁和寺。神戸から始発電車に乗って訪れた私に風と雨が演出してくれた散り紅葉。しばしの間、独り占め状態でした。



## 額縁 仁科 健

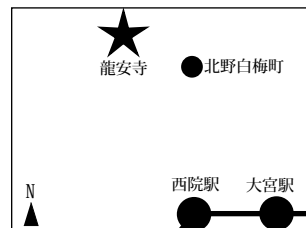
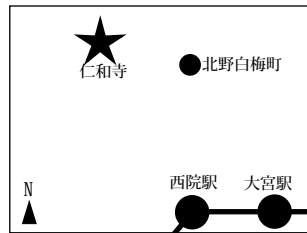
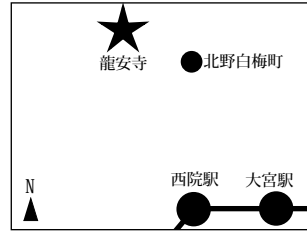
嵐山に紅葉を見に行く際は必ず立ち寄っています。少しはずれにあるのでゆったりしていて、非常に落ち着いた雰囲気です。切り取ったような色とりどりの庭には毎回息をのみます。





京都仁和寺・龍安寺 渡部政人 (3枚組)

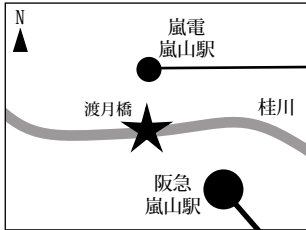
枯山水の庭園を見たくて足を運びました。  
日本文化の良さを再認識しました。



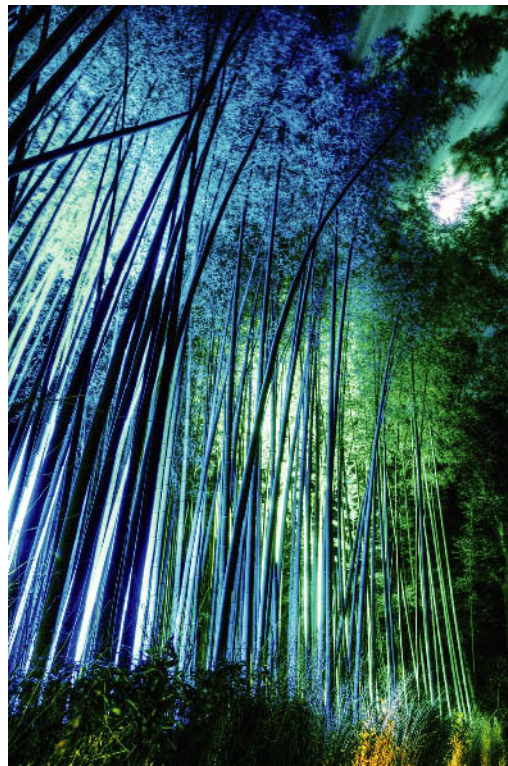
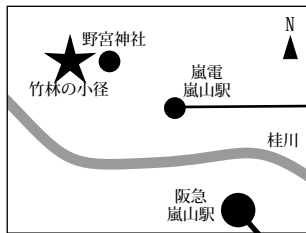


**幻想的な嵯峨野 徐明 (2枚組)**

花灯路の幻想的な光に引き寄せられ、美しい自然に包まれ、闇夜の中に輝く灯り。光の魅力に魅せられ、幻想的な世界に浸りたくて..

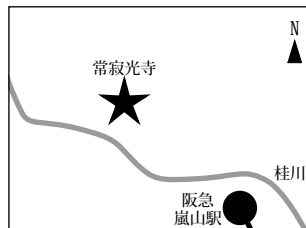


光に月。灯りの力は不思議な魅力を持っていますね。

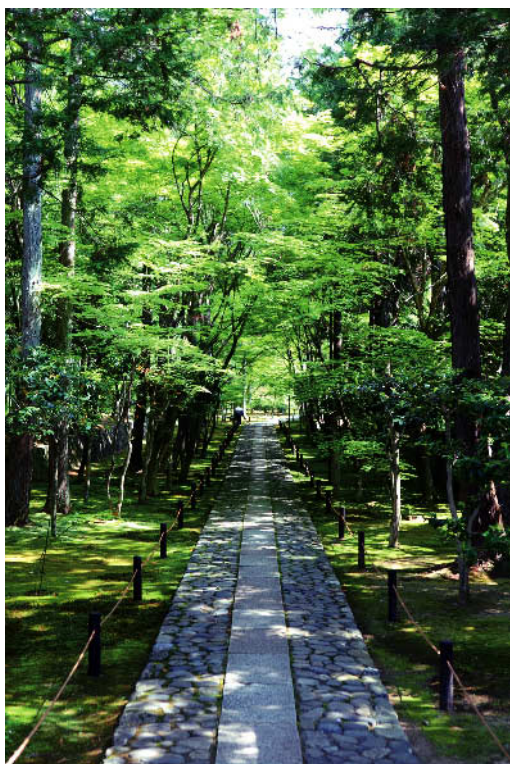


**嵯峨野で 齊藤千代三**

この日、常寂光寺のすばらしいお庭を拝観した後、その近くを少し歩いた時の風景です。観光的アングルとはいえませんが、このあたりどこを歩いても癒されます。

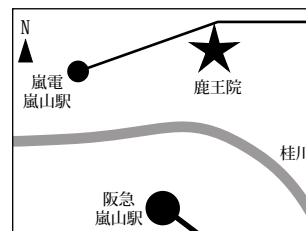






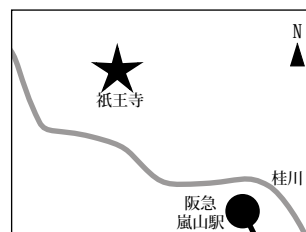
**こもればの道 匿名希望**

朝からお天気良かったので、人が少ない早朝に撮影を行いました。早朝の静けさとももればに京都らしさを感じた撮影になりました。



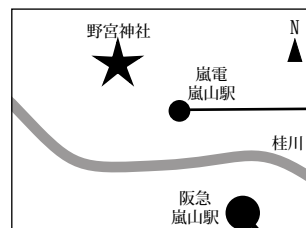
**新雪の祇王寺 松室安紀**

今年初めて雪がつもった祇王寺へ訪れた。紅葉の散りもみじが美しい庵だが、新雪が積もった祇王寺はまた格別だった。



**森林浴 河合都章**

空気・かおりが美味しい所で、居ただけで身体が元気になりそう。

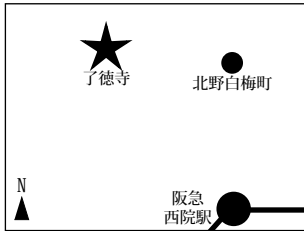




## だいこだき

森本 健

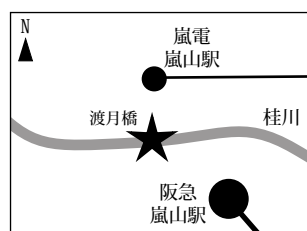
クリスマス、バレンタイン、その普及には食べ物とタグを組んでいたことが大きく影響しただろう。京都発の冬の行事として、だいこだきも一層広く、世界に知られるべきである。



## 月渡る橋

前川敏夫

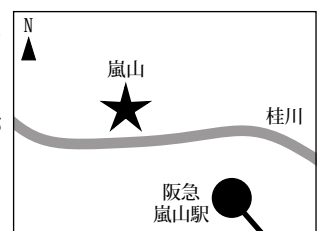
嵐山・花灯路、皆既月食の日の月の出。渡月橋を渡る満月を撮りたくて、大堰川右岸の貸ボートの並ぶ側から撮りました。数日前に行って、ボートのパターン化された画が気になってましたが、月が雲の中で再挑戦です。



## 人待ちの人力車

宮田 仁

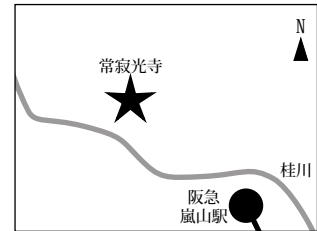
この日はウィークデーとあってか人力車も列をなして待っている場面が多く見られメタリックに光る車輪が印象的だったので。





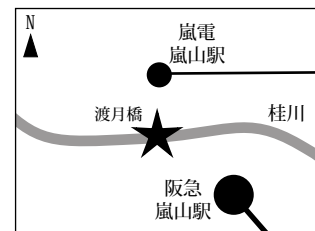
**燃ゆる秋 西澤忠雄**

紅葉が真っ赤に燃ゆる秋、京都嵯峨野を散策しました。初めて常寂光寺を訪れましたが、その紅葉の見事さに圧倒されました。



**雪化粧の嵐山 松山俊弘**

2010年12月31日の大晦日の日に大雪が降り、嵐山・渡月橋の雪景色の写真を撮る事が出来ました。久しぶりの雪景色を大いに楽しむことが出来ました。

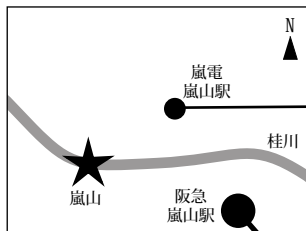




## 秋の舟遊び

佐伯知美

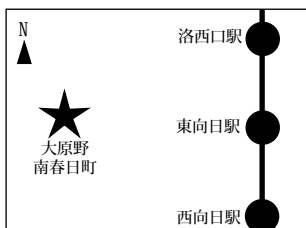
紅葉も盛りのある日、人が一杯になる前にと朝早くに紅葉狩りに出かけました。朝日をキラキラ浴びながら、船がスルスルと目の前を過ぎて行きました。羨ましいな～と思いながら見送りました。



## 大原野

久保隆生

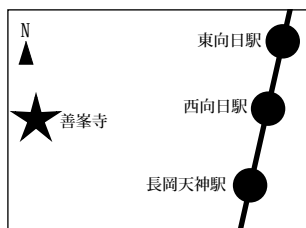
桜で有名な大原野神社も、今はまだ肌寒い3月末。菜の花があたたかくむかえてくれました。



## 桂昌院の慈悲にすがりて

大田嘉治

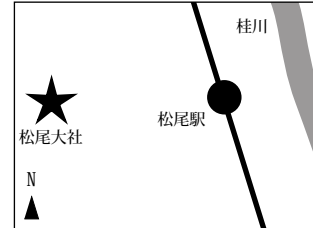
京都市街を見下ろす山の中腹にある桂昌院、そのお姿は京都市民を見守ってくださっているようだ。





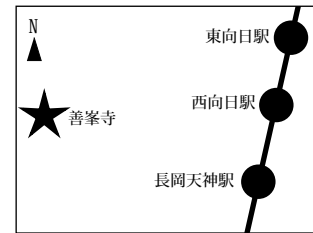
### 酒の神は山吹色 平岡正己

酒造りの技を伝えた秦氏の創建とされる社殿には酒樽がずらり。特に山吹の花が咲き乱れる頃の松尾大社は、嵐山線の豪華なビューポイントです。



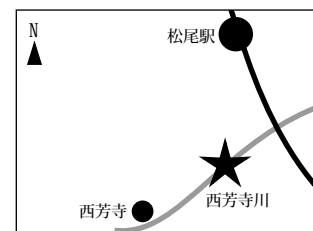
### 新緑と石畳 松山俊弘

春は桜、6月はアジサイ、秋は紅葉が見事です。でも新緑の緑もみじも目にあざやかです。境内には桂昌院お手植の遊龍の松があり、広い境内は楽しんで散歩することができます。



### 花筏 金丸訓明

川下に集まった花びらから、上流で花筏ができる可能性を知り、2年かけて撮れた写真です。その時の水量や天気で予想以上にチャンスが少ないことを思い知らされました。

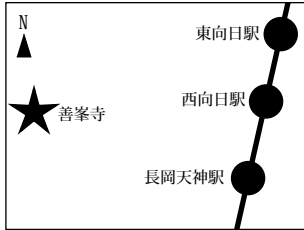




## 名木の競演

小林旭雄

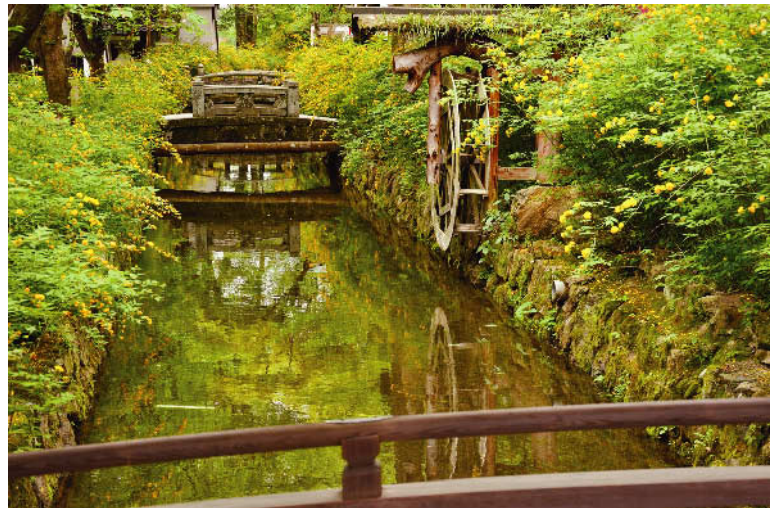
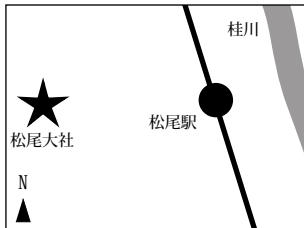
善峯寺は京都市内とまた違った山寺で境内全域が桜色に染まります。特に樹齢600年を誇る遊龍の松は横に約40mあり天然記念物で、その横にある見事な枝垂れ桜は樹齢300年で徳川綱吉の生母桂昌院のお手植えとされる。



## 山吹の咲く川

長瀬英俊

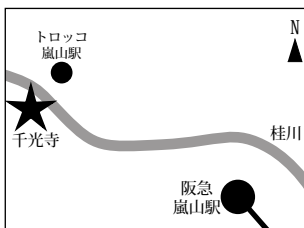
新緑の中、黄色い山吹の花が咲き乱れる川面には、初夏のさわやかな風が吹いていました。



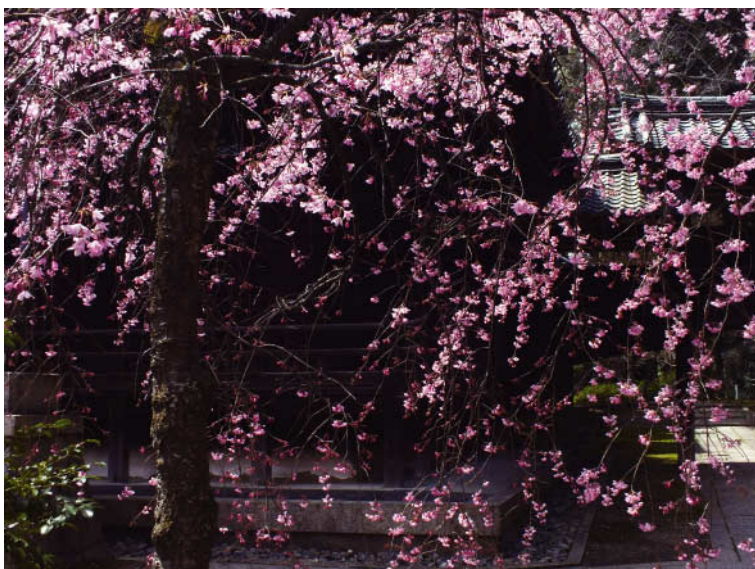
## 雪化粧

長谷川悟

昨夜からの雪で、千光寺が少しでも雪化粧をしていました。

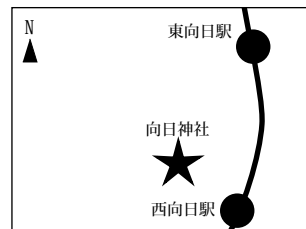






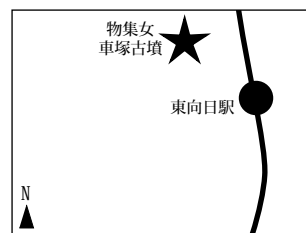
**輝くシダレ桜** ミヨシトシオ

向日神社のシダレ桜が太陽に輝いて美しかった。



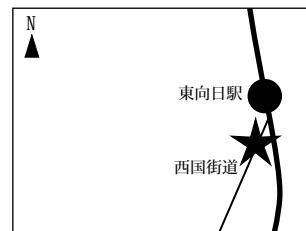
**こんなところに古代が** 武田彰二

阪急電鉄・洛西口駅から少し歩いた住宅の中にこの古墳はあった。偶然、係の人に説明を聞くことができ、古代に思いをさせ、勉強する機会を得たことをよろこんで、応募しました。



**西国街道** 岡田山めぐみ (PN)

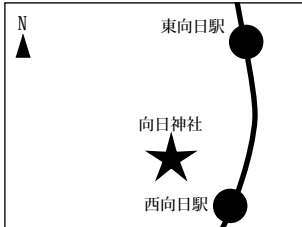
阪急東向日駅の近くで見つけた道しるべと古いお家。この道は昔の西国街道だとか。毛利や島津のお殿様もこの道を通ったのかな．．と昔に思いをさせていただきました。





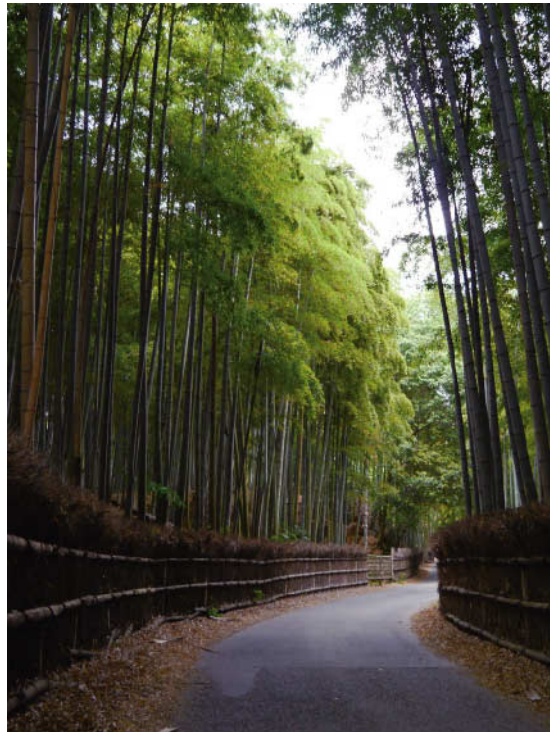
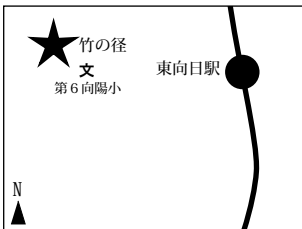
## 桜門 戸村聡里

向日市を代表する向日神社。明治神宮のモデルにもなった由緒ある神社の門。桜にも由緒ある向日神社ならではの迫力ある桜の枝振り。この季節は桜が人々を迎えてくれます。



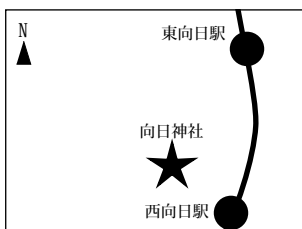
## 竹の径 岡田山めぐみ (PN)

以前、西山の麓の会社に勤めていた頃、春はよく筍ご飯のお弁当を買ってお昼に公園で食べました。ひさしぶりに竹林を歩き、あの頃のことを懐かしく思い出しました。



## 向日神社の桜 岡田義夫

向日神社の桜が、美しく咲いていたので、夕暮れの薄暗くなる頃に、広角レンズで桜に接近し、補助的にフラッシュを発光させて、手前の桜の花を浮き出させ、遠近感を強調出来る様に表現してみました。

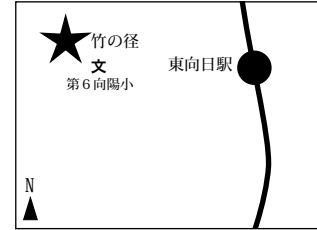




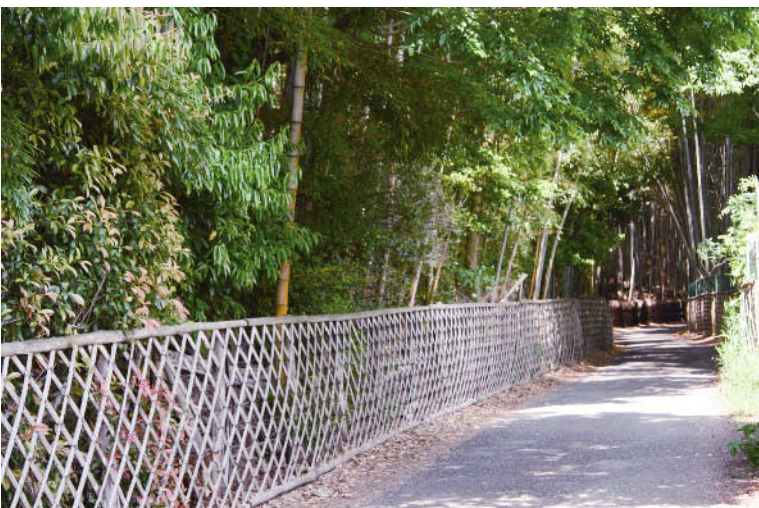


**竹の径・いろんな垣が 武田彰二 (3枚組)**

歩いてみたい。竹の径を進むとまず最初にこの深田垣に出会う。深田川のきらきら輝く川面をイメージして作られたという。この先が楽しみになってきた。



深田垣をすぎて、しばらく歩くと次にあらわれたのが古墳垣。竹の径と古墳をそっと見守るような竹の造形であった。なおこの古墳は寺戸大塚古墳といった。

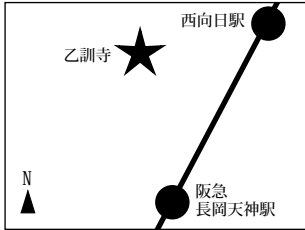


次にあらわれたのが寺戸垣。時折ウグイスの鳴き声が、又サンショウの実をとる人がいたり、気持ちの良い径を歩いてきてよかったと思う。



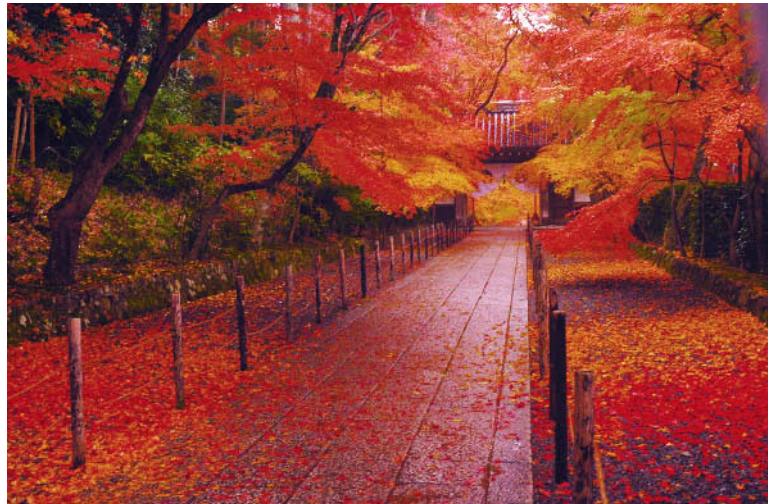
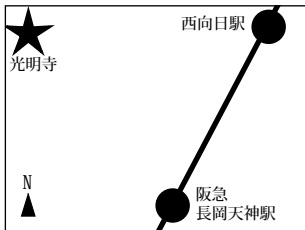
## 傘に守られて 谷 三和子

新緑中、コミカルな傘達が小さな赤い牡丹達をしっかりと守っているようでとてもほほえましい景色でユニークでした。思わず1枚カメラに収めて。



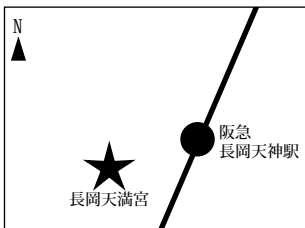
## 古都の秋 前田勝彦

雨上がりの紅葉の素晴らしさを満喫しました。

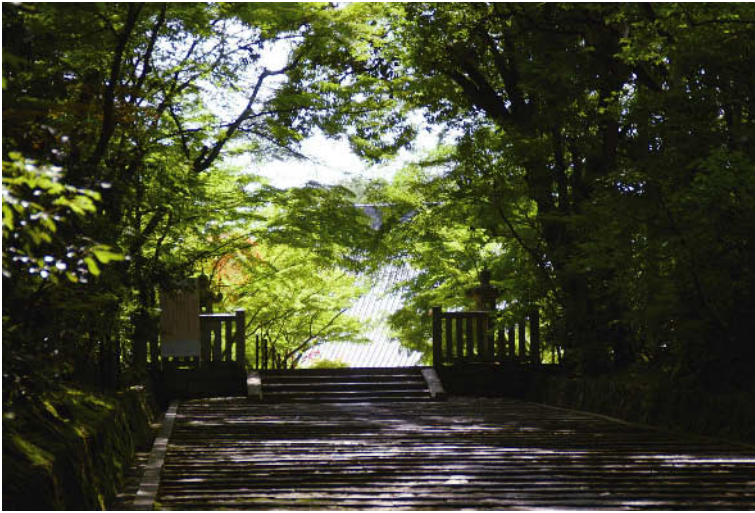


## 鳥居の向こう 平田麻依子

お稲荷さんへと続く道です。鳥居を1つくぐる度に身がひきしまる思いがします。

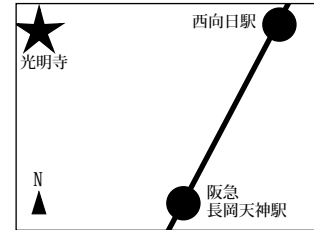






**新緑に誘われて 大田嘉治 (2枚組)**

木漏れ日のパターンを楽しみながら一段、又一段と進んでいく。樹木が放出するエネルギーを全身に浴びながら。

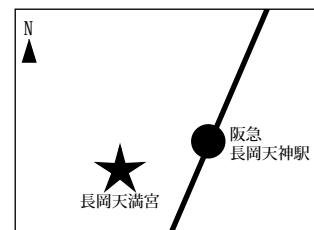


緑のトンネルが徐々に薄まり前方に明るさが増してきた。顔を上げて正面を見ればそこには本堂の大屋根が目映いばかりに輝いていた。



**八条ヶ池と躑躅 長瀬英俊**

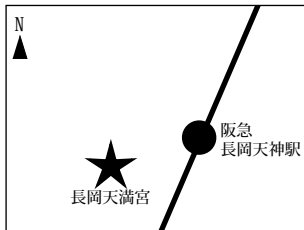
赤いつつじが咲き誇るなか、青い空と木々の緑が反射した水面に、一羽の鶺鴒が少し寂しげでした。



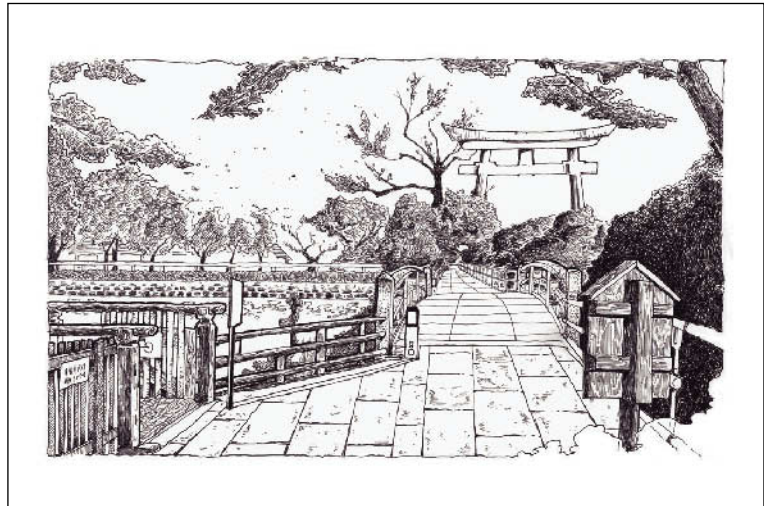


**長岡天満宮 岩本駿平 (2枚組)**

お気に入りのベンチから見えるお気に入りの景色です。

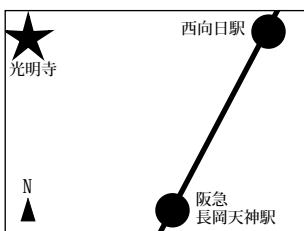


若い人は、ハガキを使う機会が少ないので、そういう方にも手に取ってもらえるような作品にしたいと思い描きました。



**深まりゆく秋 中川浩之**

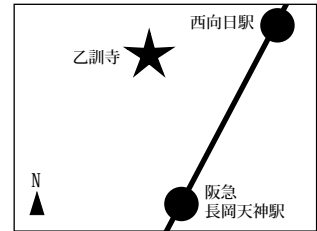
山寺の山門には、秋も深まってきたことを思わせるもみじとその落ち葉が溜まっています。





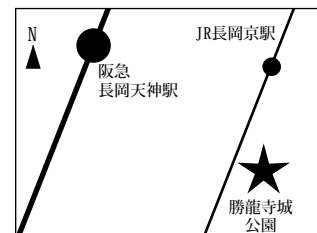
**牡丹寺 西澤忠雄**

ゴールデンウィークに牡丹寺として有名な乙訓寺を訪れた。色とりどり、艶やかに咲く牡丹の花に白い傘が良く似合う。



**ワァーきれい！ 谷 章弘**

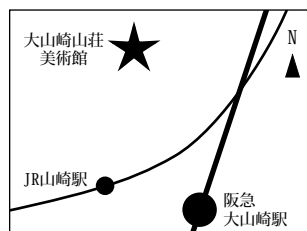
いつも長岡天神駅は素通り。ひさしぶりに下車。いい所です。





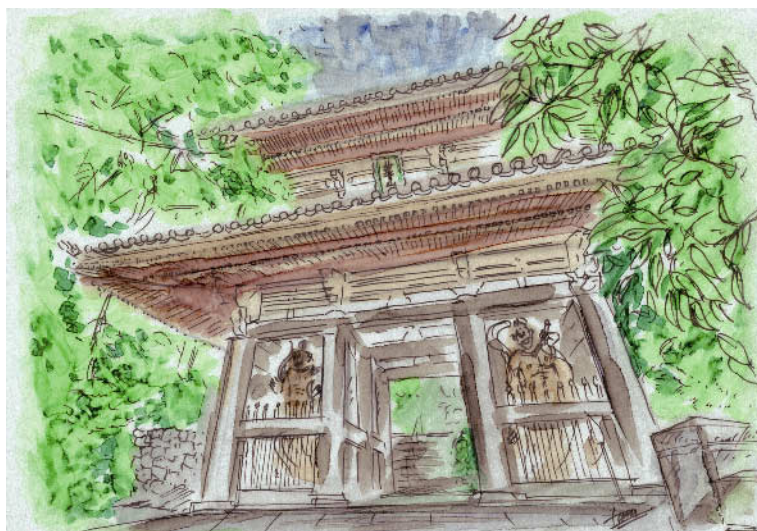
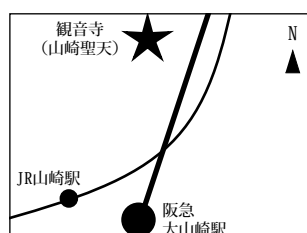
## アサヒビール大山崎山荘美術館本館 小林香菜

大正から昭和初期にかけ、別荘として建てられた洋館を原形とするそうです。歴史を感じさせる建物ですが、今でも決して色褪せないモダンな佇まいです。



## 観音寺仁王門 戸間正隆

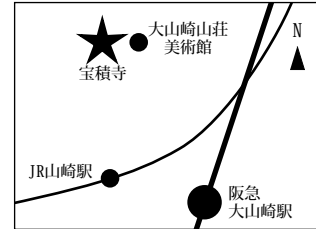
急な勾配の石段を登り切ると大きな仁王門が現れる。地元の人には山崎聖天の名で親しまれている観音寺。緑が生い茂る山の中に建つ。風格ある仁王門を描いてみた。





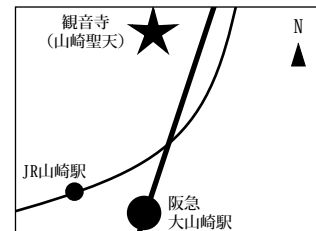
### 大黒天詣り 花井和夫

台所・食堂より見守ってくださる、一番身近な神様である大黒天。小槌宮にはたくさんの大黒天の赤い提灯がかけられています。



### もくれんの花 花井和夫

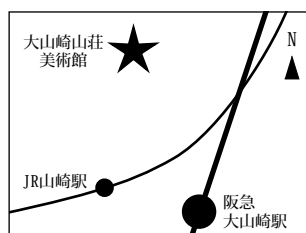
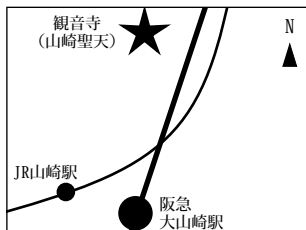
聖天堂の横に紅木蓮が咲いていました。清楚な中に艶やかさも兼ね備えた紅木蓮に心ひかれ思わずシャッターを切りました。





**天王山散歩 平岡正己 (3枚組)**

陽気に誘われ天王山へ。三川合流地点らしき風景が開け、下に目をやると、あっ  
 阪急電車！あれっJRも新幹線も・・・や  
 っぱり三線合流？帰りに山崎聖天で1枚、  
 大山崎山荘美術館を外から1枚。さすが  
 に疲れました。

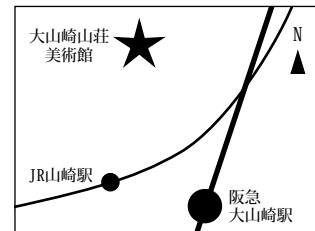




## 美術館

## 木村成宏

自然と一体化しながらもバランスよく手の入れられた庭園は、英国風の山荘に良く馴染んでいて、ちょっとした避暑地気分の味わえるとても気持ちの良い場所でした。





## ● 阪急ええはがきコンテストの軌跡 ●

### ● 第1回阪急ええはがきコンテスト

対象：宝塚線・箕面線沿線

作品募集期間：2010年2月1日～5月7日

審査員（敬称略）：有野永霧（写真家）、井上正三（画家）、杉本容子（大阪ええはがき研究会）、茶谷幸治（イベントプロデューサー）

入選作品：100作品

主催：阪急電鉄 共催：阪急阪神ホールディングス

後援：大阪府、兵庫県、大阪市、豊中市、池田市、箕面市、川西市、宝塚市、池田市観光協会、箕面市観光協会、川西市観光協会、宝塚市国際観光協会

協力：大阪ええはがき研究会

阪急電鉄開業100周年を記念して、創業当時の路線である宝塚線・箕面線沿線を対象に開催



最優秀賞 写真部門  
五月のレンゲ畑 當山悦司



最優秀賞 絵画部門  
豊南市場 内橋未央



入選作品の展示  
(阪急梅田駅 C0-ビッグマン前)



開業100周年記念シンポジウムでの表彰式  
(宝塚ホテル)

### ● 第2回阪急ええはがきコンテスト

対象：今津線沿線

作品募集期間：2011年3月25日～6月3日

審査員（敬称略）：有川浩（作家）、有野永霧（写真家）、井上正三（画家）、杉本容子（大阪ええはがき研究会）

入選作品：54作品

主催：阪急電鉄 共催：阪急阪神ホールディングス

後援：兵庫県、宝塚市、西宮市

協力：大阪ええはがき研究会

特別協力：西宮市宝塚市内郵便局、阪急西宮ガーデンズ

映画「阪急電車 片道15分の奇跡」のロードショーを記念して、映画の舞台である今津線沿線を対象に開催



最優秀賞 写真部門  
マイ・ウェイ 本城利彦



最優秀賞 絵画部門  
ビール工場 奥村 誠



入選作品の展示 (西宮北口駅カリヨン広場)



# 審査員の先生方からのメッセージ

コンテストの審査員の先生方からいただいた、コンテストを振り返ってのメッセージをご紹介します。

## 有野永霧先生 (写真家)

3回目というのは企画にとって重要なポイントになるとよく言われますが、今回も実にすばらしい、魅力的な写真が集まりました。阪急電車の主要幹線の一つである京都線、それも京都を中心に募集をしたこともあって、制限をかけたにもかかわらず、集まるは集まるわ。選ぶのに何時間も何日もかかり、うれしい悲鳴をあげました。量と質は比例するもの。高水準の作品が多かった。京都を中心とした観光地に入り込み、関西人の心細やかな感性で捉えた秀作が目に見え込んできました。それに対して、沿線で繰り広げられる生活感のある日常風景は、今回あまり見当たりませんでした。京都という地域は、それほど魅了する観光スポットが多いと言えるのでしょうか。

## 井上正三先生 (画家)

今回は、京都線の様々な風情を切り取った作品に触れ、改めて沿線の魅力を見せていただきました。今回の絵の応募作品で特に目立ったのは表現方法の多様さです。こんな見どころがあったのかということより、こんな表現があったのかという驚きがありました。透明水彩の淡い魅力、躍動する線タッチ、ノスタルジックで妖艶なセピア、ダイナミックな筆さばきなど印象的な表現が多くありました。最終的に絵はがきという小さな窓に納めることにとられない自由な表現や描法を嬉しく拝見した次第です。

このコンテストが3度目を迎え、各沿線の魅力再発見というテーマに加え、写真や絵の作品発表の場としても定着してきたことを嬉しく思います。

## 杉本容子先生 (大阪ええはがき研究会)

観光地としての固定的なイメージが強い京都でのええはがきコンテスト。どこまで作り手独自の視点で京都の魅力に迫れるか、一抹の不安を感じながら審査会に臨んだところ、第1回、第2回と積み重ねてきたコンテストの経験から「ええはがき」というものがより深く理解され、京都の思いがけない一面を見せてくれる素晴らしい作品が並びました。受賞作品を選ぶのがこれまでで一番難しかったというのが率直な感想です。

価値観が多様化している今の時代、ロングテールを持っているまちが選ばれ、生き残っていきます。計3回のコンテスト入賞作品は、阪急沿線のまちの層の厚さ、魅力の多様性をはつきりと証明しており、次回への期待がますます高まります。

## 土居好江先生 (NPO法人遊悠舎京すずめ理事長)

第3回「ええはがきコンテスト」に関わらせて頂き、季節や場所等、時空を超えて、京の魅力に一瞬にして出会える幸せな時間を頂きました。一期一会の景色に出会える幸せは、日頃から京都をフィールドワークしている私にとって、この上ない幸福のひとつでした。

コンテストでは、まちに暮らしが息づき、人々が行き交う様子や人間の喜びや悲しみ等の感情が吹き込まれた作品が、評価されたように思います。作者の想いが残照として心に残る体験は、審査委員冥利につきます。

このコンテストが京阪神の魅力発掘の伝統的なコンテストとして末永く皆様から愛されることを心よりお祈り申し上げます。

### ■ 有野永霧 (ありの えいむ) 先生 プロフィール

尼崎市生まれ。大阪学芸大学(現大阪教育大学)卒業。1985年尼崎市民芸術奨励賞、2002年尼崎市民芸術賞受賞。1981年タイムライフ写真年鑑新人賞、1994年第19回伊奈信男賞受賞。国内外で多数の写真展を開催し、写真集に「虚実空間・都市」、「都市からのメッセージ」、「都市との対話」、「虚実空間・空蟬の都市」、「虚実空間・空蟬の風景」、新刊に「日本人景 温泉川」などがある。大阪芸術大学写真学科客員教授。

### ■ 井上正三 (いのうえ しょうぞう) 先生 プロフィール

芦屋市在住。1994年に絵はがきシリーズ「風のたより」初出版。宝塚阪急百貨店で「阪急沿線スケッチ絵はがき原画展」を毎年開催。郵政省の絵はがきやモロゾフ製菓のパッケージデザイン、芦屋市や宝塚市の広報誌などにも数多く採用され、2002年には、芦屋市長から米姉妹都市モンテペロ市長に水彩画「芦屋川」が寄贈されている。2008年水彩画集「風の便りに彩りそえて」を日貿出版社から出版。現在、阪神間各地で絵画教室を開催。

### ■ 杉本容子 (すぎもと ようこ) 先生 プロフィール

神奈川県生まれ。大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士前期課程修了。工学博士。大阪市立大学都市研究プラザ研究補佐・特別研究員。株式会社ワイキューブ・ラボ 代表取締役。まちづくりコンサルタントとして大阪の水辺再生や歴史的街なみづくりに関わるかわら、アフターエイトに大阪のまちをおもしろくするNPO活動に積極的に参加。2009年に新設された大阪府都市魅力創造局にて、民間からの特別任用により都市魅力を創造する施策の企画調整を担当後、株式会社ワイキューブ・ラボを設立し代表取締役に就任。

### ■ 土居好江 (どい よしえ) 先生 プロフィール

京都市生まれ。大学卒業後、民間会社を経て、(財)松下政経塾京都政経塾に学ぶ。NPO法人遊悠舎京すずめ理事長・京都文化観光研究所長として、京都ならではの文化の持つ奥深さを五感で学ぶ講座「京すずめ学校」の開催や、京都の歴史・文化・自然・暮らし等に寄せる思いを綴った「京都への恋文」公募等、京都の奥深い魅力を暮らしの中から発掘・発信する活動に取り組んでいる。京都市市政改革懇談会委員、京都府観光ブランド推進委員会委員、第26回国民文化祭基本構想起草委員、企画運営委員など公務多数を歴任。成美大学客員研究員、NHK文化センター講師。



第3回阪急ええはがきコンテスト

ええはがきコンテスト京都 入選作品集

発行 2012年9月

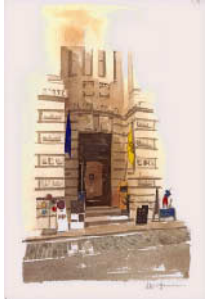
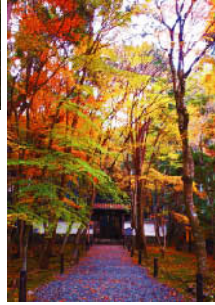
編集・発行 阪急電鉄株式会社 都市交通計画部  
大阪市北区芝田1-16-1

TEL 06-6373-5206

URL <http://rail.hankyu.co.jp/eehagaki/>



Ukyo



Nishikyo

Muko



Shimogyo

Nagaokakyo



Oyamazaki



私たちは、未来へつなぐ「環境づくり」と「人づくり」に貢献します。